

真言宗智山派 「女性教師全数アンケート調査」分析研究報告 (自由回答編)

現代宗教研究室 常勤教授
田村 宗英

0. はじめに

本稿では、アンケート後半部分（問21～24）の自由回答形式について報告する。紙幅の都合上、全回答を掲載できないことは大変心苦しいが、できる限り網羅すべく項目立てをし、重複する内容については回答記述を損ねない範囲でまとめることとした。また表記についても概ね記述されているとおりとした。

この自由回答形式の設問は、集計結果報告【調査の概要】にも提示したとおり、「教師としての自覚と目標」について尋ね、その中に女性特有の事例があるか探ることを意図して設定したものである。

1. 問21～24自由回答記述 分析研究報告

問21. どのような教師でありたいと思いますか。目標についてお書きください。

回答数 70 特になし 2 無回答 23

【相手の心に寄り添う、心の支え、親しみを感じてもらえる教師】

・寄りそえる人になりたい。教師とは言っても、友達のような、家族のような存在になって、安心できる場所をつくりたいです。

・いつも相手の気持になること。心からのやさしさを持つ教師。

- ・ お檀家さんから依頼され、世の中の人のお役に立てる人物でありたい。
- ・ 教師として、寺庭としても、寺を発展させて、次の世代に継承していくことが目標。今現在の寺の生活が楽しく、皆が幸せに暮らしていけるように努めたい。
- ・ 色々な境遇や立場の人達に寄り添える、親しみやすい、相談しやすい教師でありたい。
- ・ 女性教師である強みを生かし、もっとお寺という場所を身近に感じてもらえるような環境をつくれる教師でありたい。
- ・ 少しでも信徒の皆様の気持ちを感じて、手助けになれる様にしたい。
- ・ 常に誠実に物事に取り組み、謙虚な態度を失わずに人々と接し、慕われる教師でありたい。
- ・ 寺院を存続、護持する為に何においても誠心誠意で臨み、檀信徒や地域住民とのきずなを深め、心の支えとなるような存在になりたい。檀信徒とは、共に信仰を深め、共に寺院を活性化していく仲間になりたい。
- ・ 人として同じ目線に立てる僧侶であり、寺のことはしっかりとできている教師になりたい。
- ・ 開かれた寺院で気軽に來て話しができるような関係性。
- ・ 上からのもの言いではなく、常に在家の方と同じ目線を持ち、共に悩み寄りそいながら傾聴できる人。

【仏教を学び広める】

- ・ 仏の教えに沿って生き、一つ一つの行動からそれが滲み出てくるような、教師らしい教師になりたい。地域の方が頼りにしてくれるようになるのが一つの目標。
- ・ ブッダに1歩でも近づきたい。
- ・ 向上心を持ち、謙虚であること。常に仏法とともに有ること。
- ・ 仏教、密教の教えを学びたい。
- ・ お大師様のお教えをもっと勉強し、檀信徒の助となる様な法を布施できる教師でありたいです。

- ・一人でも多くの方に仏教を伝えるように精進したい。
- ・神仏に対して真っ当な教師。

【その他】

- ・一般的な感覚をつねに持ち続けていたい。
- ・後継が決まるまでは何より自坊の存続を第一に考えている。日々精一杯で目前の実務をきちんとこなしていくことが目標。

回答数が70あり、多くの女性教師が目標を持って活動していることがわかる。回答の半数以上に「檀信徒に寄り添うことができる教師」「心のよりどころとなる存在」「親しみを感じてもらえる教師」という記述があるとともに、仏教を深く学び広めていきたいという意見も多数あった。

問22. 女性教師として意識して活動していることはありますか。ご自由にお書きください。

回答数 47 特になし 17 無回答 31

【女性教師という意識にとらわれない】

- ・男性だから、女性だからという概念にとらわれないように行動しています。
- ・特別、女性だからといって意識していることはありません。
- ・「女性教師」としてあまり意識しすぎずに活動しています。
- ・むしろ意識しないようにしています。

【同性の親しみやすさ】

- ・女性だから質問しやすいといったことがあるようなので、わからないことがあったら些細なことでも聞いてくださいと積極的に声をかけてい

ます。

- ・水子供養では、女性だからこそわかる辛さや苦しみがあるので、女性教師として大切な仕事だと感じています。

- ・意識はしていませんが、まわりの方から女性という事もあり色々和相談される事（話しかけられる事）が多いと思います。

- ・自坊では女性の檀家さんが来山することが多く、お話する機会も多いため、女性同士で親しみを持ってもらえるように丁寧にお話を聞いたり、いつも笑顔であいさつをするよう心がけている。

- ・檀信徒の方々にとって、男性僧侶には話しづらかったり、聞きにくかったりすることも、女性（尼僧）相手だと話しやすい傾向があるようなので（体感ですが）なるべく穏やかな雰囲気と笑顔を心がけ、親しみやすさを意識しています。

- ・男性に対して言いづらい事がある場合でも、女性だと話しやすいことがあるので、男性僧侶だと目の届かないところを意識して拾いあげようとはしている。

- ・きめ細かく女性の相談を受けられる。

【男性教師・僧侶との関わり／社会の風潮について】

- ・好奇の目で見られることが少なからずあるので、女性であることに対する偏見をもたれ、見下されることがないように意識している。

- ・特に意識ではないのですが、男性社会の中で女性でもできるのだという姿を次世代のお子様に見て頂き、次に続く子供が増えればと思っています。

- ・特に意識していることはありませんが、男性僧侶のあまりにもバイアスがかかった発言には注視しています。

- ・男性僧侶に負けないくらいの声を出す。

- ・男性教師から“腰かけ”等とバカにされたくない。

- ・女性教師に対して偏見があるからこそ、見下されないように意識している。

・男性社会の調和や輪を乱さないこと。(教師が集う場面で)和やかな雰囲気作りを心がけること。

【身なり・頭髮について】

- ・身なりをきちんとととのえる
- ・常に剃髪ですごすこと。
- ・髪を伸ばしているため、衣帯を整えて、僧侶として、接してもらえるように、意識しています。

回答されている中でも「特に女性教師として意識していないが…」という記述が散見された(回答数7)。また、女性の檀信徒からは同性であることから男性には相談しにくい事柄等も含め、親しみを持たれることが多いという回答が12あった。次に、多く挙げられていたのが、男性教師・僧侶との関わりや社会一般の風潮についての回答が7あり、「偏見を持たれている」「見下される」ということばが目立っている。これは次の問23と重なる回答で注意が必要である。

問23. 女性教師として疑問に思うこと、不都合に思うことがありますか。

ご自由にお書きください。

回答数 47 特になし・あまり感じない 18 無回答 30

【男性教師・僧侶との関わり／男性中心社会／社会の風潮について】

- ・教師は男社会だと思ふ事ばかりで根本が違いますから、すべてが不都合と思って仕事をしています。
- ・僧侶の世界は男社会であると感じる。区別が生じるのは当然。しかし、男女の別より重要な事は一個人、人間としてどうかという事と思っている。
- ・やはり男社会であると思う。でも、女1人で向き合うとなると、気力

がないとむずかしい。

- ・世間一般的に認められにくい。
- ・檀家さんになめられる。（法事など住職を指名される）
- ・夫がいると、皆、夫がメインでやるものだと思っているし、夫も法事等はやらずに事務だけしていればよいと言う。他寺院によっては“女だから”と法要に呼ばれても、お茶出し等を割り合てられ、男性教師と同等に扱われない。
- ・男性教師には出来ない、男性教師には敵わないことを認め理解し、教師の世界で共生させていただけることに感謝しております。
- ・仕方のないことですが、すべての基準が男性教師であること。男性優位の世界だからこそ、女性の立場が軽んじられている。女性であることに対する偏見や目目で判断されることがあり、見下されることがある。
- ・自坊以外で法事や行事などの助法に行かせて頂く際、「男性の方がよかった」との声を聞くことがあり、特に年配の方には受け入れが、まだ難しいのかなと感じます。（檀信徒側だけでなく、寺院側からも）
- ・修行中の剃髪は、日常生活に戻ったときに周囲から奇異な目で見られるのでとても困った。僧侶＝男性のイメージが強く、葬儀においては、男性僧侶（教師）の方がよいと言われたことがあり、この業界はジェンダーバイアスが色濃く反映されると思いました。
- ・男僧さん中心の活動、研修がほとんどのため、とくに衣帯をつけての行事等は着替える場所などの問題で参加したくても迷惑をかけそうなのであきらめている。
- ・男性教師が優先的なところや教師＝男性の風潮が少なからずある（世間の目）目目で判断される。
- ・他の僧侶から偏見を持った言葉を掛けられた事がある。自分に自信を持たなければと思った。

【法務・檀務関連】

- ・読経の際、男性となかなか声を合わせるのは難しいです。努力致します

す。

- ・やはり男性の中での着替え。
- ・ごくごく自然に女性だからと役をはずされる事が多い。縦社会であるので実力よりも、階級が重視される。
- ・時折、着替え場所がなかったり、「女性だから」と言うコトバを耳にする時。
- ・檀家ではなく、新規の葬儀を受ける際、尼僧であることを不安に思われる事もあるため、現在葬儀への出仕はほとんどしていません。不都合とまでは思いませんが、性別によって信頼度や与える印象が変わる事もあることは実感しています。
- ・頭を出した時にうまく助についてもらえない。助法に呼ばれない。
- ・住職を務めさせていただいているが住職といえば男性だという先入観は多くの人が持っており尼僧が住職を務めていると知らない人からは自分に対応しても「御住職はいらっしゃいますか」といった言葉を投げかけられる。
- ・剃髪していた当時、ウィッグ、かつらを被って、総会その他の集いに参加したら、とある住職から、かつらをかぶって出席をするなどと言われてすごく不愉快だった。

【生活面／仕事と家庭生活との両立について】

- ・教師としての研鑽を積みたいと思っても、どうしても妊娠、出産の都合で難しいことがある。研修や各種養成所などの出席日数など、考慮していただきたい。（長期間に渡る受講が必要なもの）
- ・女性が剃髪することは、やはりハードルが高いと日常生活でも思います。
- ・仕事、家事、育児、介護の両立。
- ・今は子育てに時間を割いている為、又、兼職（フルタイム）もある為、教師の活動ができておらず、少々もどかしい思いがあります。
- ・子育てをしていると、長期間家をあけることが難しいと感じています。

（練行なども履修するのが難しいなど。本山などへ2週間行くことは難しいので。）

・剃髪や坊主は、女性がその頭で歩くと人の目が気になるし、ウィッグは季節を通して常につけ続けるのも不快だったり、不便である。しかし「僧侶＝剃髪・坊主」というイメージは根強いので、髪がありながら僧侶らしさを出すには立ち居振る舞いや読経により一層努力を積み重ねなければならないと思う。

・社会にでた時に坊主頭だと興味本位でみられる。ウィッグは不快、有髪にしたい。

問22の回答とも関連するが、男性教師・僧侶との関わり・男性中心社会・社会の風潮について言及した回答が25あり、回答ありのうち半数以上を占めた。

ここについては、日蓮宗現代宗教研究所が行った「日蓮宗全女性教師アンケート（令和3年度調査）」にも同じ設問があるので、比較対照させてみたい⁽¹⁾。まず、日蓮宗では「疑問・不都合に思うこと」について、すべての年代において「ない」が最多との報告であるが、本宗ではそのような傾向はみられなかった。さらに、日蓮宗の報告では、30代のみ「ない」が半数以下となり、「キャリアを積み始めるころに壁に当たることの現れ」⁽²⁾との指摘がなされている。回答者の年代のボリュームゾーン等も考慮に入れる必要があるが、本宗においては20～40代・60代においては「ない（無回答）」が半数以下、つまりは「あり（記入あり）」とする回答が半数以上で、日蓮宗の報告と比較すると幅広い世代で「疑問・不都合に思うことがある」ということになる。

また、30～40代では家庭生活（育児・介護など）と仕事である法務・檀務の両立の難しさに加え、かつら・ウィッグについての悩みを挙げる意見が他の年代よりも多くみられた。

問24. 女性教師として強みを感じることはありますか。ご自由にお書きください。

回答数 51 特になし 16 無回答 28

【同性の親しみやすさ】

- ・女性の檀家さんが色々と話しをしてくれるのは強みだと思う。
- ・檀家の皆様が（特にお母様方）気軽に何でも聞きやすい…と喜んで下さいます。
- ・女性の檀家さんは話しかけ易いと言ってもらえる。住職には訊きにくいことを訊きやすい（寺の基本的なこと）
- ・檀家の方は女性として接してきますので相談事が多くなりますが、（人間関係、家庭の事等）聞く耳を持てる様にしています
- ・檀信徒の方から話しやすいと言われています。男性にはない、生活感のある柔らかさでしょうか。
- ・都会とはちがい、田舎は地域のつながりが強いので女性である為に寺院や僧侶に対する本音が聞ける。
- ・教師と寺庭婦人との両方の役割を与えられて良かった。地域性で寺庭を「(お寺の) おばさん」と呼ぶが、若い時からどんなに年上の方からも「おばさん」と呼ばれてきた。親しみを持っていて感じる。
- ・女性ということで年配の女性の一人暮らしの方のご自宅に供養や棚経に行くと安心するようで喜ばれます。
- ・女性の悩みを聞き、答えられる。
- ・若い方や女性から“住職には聞きにくいから”と話をされると強みだと思う。
- ・女性の檀信徒や、若い世代の方からは、話しかけやすいと言われるため、接しやすさは強みかと感じます。
- ・教師、寺庭、両方の良い面を生かし、今まで経験してきた子育て、介護等の変え大切さを檀徒の方々とも話しを共有できることです。
- ・女性だという事で男性教師には話せない事も気軽に話してもらったり

相談してもらったりしている。特に女性の檀信徒からは同性だという事で親しみを持って接してくれていると感じる。

- ・同性ということで、女性からは話しかけやすいとか相談しやすいと言われることがあります。

- ・家庭内、夫婦間、子育て、ひきこもりなど、相談する女性の心に入り易く、それが解決につながり易いです。

【少数派の利点】

- ・女性教師は、男性と比べてまだまだめずらしいので、檀家さんなどに興味を持ってもらえる。

- ・女性教師が少ないので目立つ。御詠歌をやる時、講員は女性がほとんどなので教えやすい。

- ・男性に比べたら割合が少ないので注目されやすい事。声のキーが高いので声がとおりやすく聞いて頂ける事

【女性教師という意識にとらわれない】

- ・基本的に女性であることを気にしていない。ただの僧侶でありたい。

- ・女性も男性も、そうでなくても、個人としての強みはあるかもしれませんが、性別で強みがあらわれるとは思いません。

【強みを感じない】

- ・ありません。不安のみです。

- ・強みはあまり感じません。男性僧侶の太く強い声の響きに追いつくよう、喉を強くがんばりたいと日々思っております。

- ・強みナシ、弱味のみ、帰依者ナシ。寺がナイ為、人並に扱ってくれない。檀家も何もない。アルバイトをして生活費を稼いでいたが、もう体がついてゆけないので止めてしまった。（新聞の集金をしていた）腰痛で老衰。祈祷、祈願では現代はやってゆけない。

問22の回答と重なるが、女性の檀信徒から同性であることの親しみやすさ持ってもらえるという意見が約半数（25）あった。また宗派内で女性教師は少数派であることから利点を挙げている意見もあった。

2. おわりに

本稿においては、できる限り回答の内容を掲載できるよう努めたが、もれてしまった部分も少なくない。全体を通してみて「女性特有の問題」といえるのは、問22.23の回答でみられる「男性教師・僧侶との関わり／男性中心社会／社会の風潮について」言及する例が数多く、不自由さを感じている女性教師が多数いることは明らかであろう。また30～40代では、日常生活における剃髪の問題（かつら・ウィッグ着用の不快さなど）や世代を問わず家庭生活と育児・介護と仕事との両立の難しさなども特有の問題として挙げて良いだろう。また、法務・檀務関連についても、宗派内で女性教師は少数派のため、着替える場所の少なさや男女の声質の違いから法要の役から外されるといった問題等も挙げられる。これらの点については、日蓮宗現代宗教研究所の報告にも同じような回答が多数記載されており、今後も注視していきたい。

集計結果の概要においても述べたが、個人の特定を恐れて回答できなかった方も一定数いたものと推察しており、このアンケート集計結果からは挙がってこない「声なき声」もたくさんあるだろうと承知をしている。また、見方によっては、このようなことをしても遅いという意見や何も変わらないといった向きもあるだろうが、まずは現段階において、一部ではあっても本宗における女性教師のデータと意見を残しておくことは、後世、大きな利点に繋がるものと考え、まとめた次第である。

来年度も引き続き、アンケート結果を踏まえつつ、女性教師の聞き取り調査を行う予定でいる。

真言宗智山派「女性教師全数アンケート調査」分析研究報告（自由回答編）

註

- （１）詳しくは、日蓮宗現代宗教研究所『日蓮宗全女性教師アンケート報告書（令和３年度調査）』（2023年）p.44.52.55を参照。なお、この報告書は日蓮宗現代宗教研究所HPで閲覧可能である。
- （２）上記報告書p.44